

大阪・輕里遺跡

軽甲

- |               |           |          |       |          |                      |     |
|---------------|-----------|----------|-------|----------|----------------------|-----|
| 7             | 6         | 5        | 4     | 3        | 2                    | 1   |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 遺跡の年代     | 遺跡の種類    | 調査担当者 | 発掘機関     | 調査期間                 | 所在地 |
| 平安時代中期～鎌倉時代   | 大坂府羽曳野市輕里 | 造瓦用粘土採取地 | 尾上 実  | 大阪府教育委員会 | 一九七七年(昭52)八月～一九七八年三月 |     |

密集する数多くの寺院へ供給されるべき瓦の素材として、段丘粘土層を採取した痕跡と推定された。

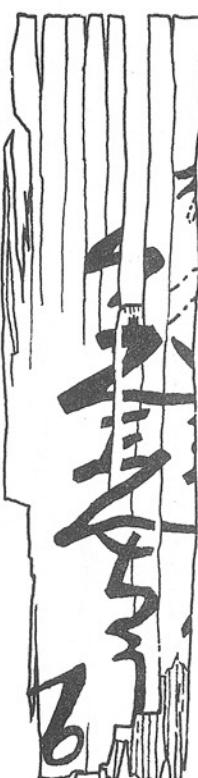
土壤群の北縁には三基の井戸が検出され、うち一基（SE七〇一）より木簡一点が出土した。井戸は素掘りで検出面での直径二・四m、深さ五・二mを測る。共伴遺物は鎌倉時代前半に属する黒色瓦器椀、土師皿、丸瓦の小片が少量あるのみである。

(1)

(103) × (26) × 1.2 081

積文については成案を得ていない。樹種はヒノキである。

年) 大阪府教育委員会『淡山遺跡・輕里遺跡発掘調査概要』(一九七八)



(尾上 実)

(以上、改訂版)

の建設工事に先立つて実施したもので、調査面積は四一六〇m<sup>2</sup>を測る。検出遺構の大部は様々な規模の不定形土壤群で、遺跡周辺に



(大阪東南部)

軒里遺跡は、西の羽曳野丘陵と、東の白鳥陵古墳から墓山古墳へと延びる中位段丘面に挟まれた、谷状の低位段丘面上に位置し、遺

として著名的な一古市大溝が北流する。調査は、大阪

(以上、改訂版)

の建設工事に先立つて実施したもので、調査面積は四一六〇m<sup>2</sup>を測る。検出遺構の大部は様々な規模の不定形土壤群で、遺跡周辺に